

教科	家庭	科目	家庭基礎			単位数	2
学科	普通・工業	履修学年	1	コース	---	必修・選択	必修
教科書	「家庭基礎 気づく力 築く未来」(実教出版)						
副教材等	「2026 最新生活ハンドブック」(第一学習社)、「家庭科ノート」(啓隆社)						

グラデュエーション・ポリシー	～卒業までにこのような資質・能力を育みます～ ①自己実現に向けて主体的に行動し、目標達成のために継続的に粘り強く取り組む能力と態度を育成する。 ②社会の一員として自己の責任を自覚し、他者と協働しながらより良い社会の実現を目指す態度を育成する。 ③人権、差別問題等を正しく理解し、適切な行動をとることができる能力と態度を育成する。
カリキュラム・ポリシー	～上記の資質・能力を育成するため、このような教育活動を行います～ ①進路目標に応じた情報収集や分析等により、生徒に現状と課題を認識させ、進路実現への意欲を高め、自主的な学習活動を促す。 ②ICTの活用による学習効果を高める工夫や積極的な授業改善により、生徒が「より深く分かる」授業を展開する。 ③探究活動を通じて、広い視野で物事を捉え思考する能力、課題解決に主体的に取り組む姿勢を育成する。また、発表等の機会を活用し、企画力やプレゼンテーション能力等の育成を図る。 ④人権に関する課題や多様性について理解を深め、課題を自らの事として捉え、人権を尊重する行動がとれる資質を身に付ける。 ⑤生徒の人格を尊重した丁寧な指導や、内面に寄り添った支援等により、自律的な行動への変容を促し、自己指導力を向上させる。

学習目標	生活の営みに係る見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を通して、様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、男女が協力して主体的に家庭や地域の生活を創造する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1) 人の一生と家族・家庭及び福祉、衣食住、消費生活・環境などについて、生活を主体的に営むために必要な基本的な理解を図るとともに、それらに係る技能を身に付けるようにする。 (2) 家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなど、生涯を見通して課題を解決する力を養う。 (3) 様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活の充実向上を図ろうとする実践的な態度を養う。
指導の重点	高等学校家庭科では、自己及び家族の発達と生活の営みに必要な知識と技能を、小学校家庭科、中学校技術・家庭科の上に積み重ねて習得し、生活をよりよくするために主体的に実践できるよう資質・能力を育成することを目指している。そのため、社会との関わりの中で営まれる家庭生活や地域の生活への関心を高め、生涯を見通して生活を創造する主体としての視点が重要になることから、持続可能な社会の構築を目指し、グローバルな視点に立って生活の現状を見つめ、なぜそうするのか、どうしたらよいかという課題意識をもつとともに、実践的・体験的な学習活動を通して、家族・家庭、衣食住、消費や環境など家庭生活の様々な事象の原理・原則を科学的に理解すること、及び、それらに関わる知識と技能を実際の生活上の意思決定や問題解決に生かせる資質・能力を育成する。

学 習 計 画	学期 (時数)	学習項目	学習内容(学習活動)	評価方法
	1 学期 (20)	第 1 章 これからの人生について考えてみよう 第 2 章 自分らしい生き方と家族	1. 生活設計 2. 自立と共生 3. ライフキャリア 4. 共に生きる家族 5. 家族に関する法律	・ 定期考査の成績 ・ 授業態度 ・ グループワークや発表の様子 ・ 学習ノートやレポート等の各種提出物の内容 ・ 振り返りシート * 上記より総合評価
		第 3 章 子どもとかかわる	1. 子どもとは 2. 子どもの発達 3. 子どもの生活 4. 子どもをはぐくむ 5. 子どものための社会福祉	
		第 4 章 高齢者とかかわる	1. 高齢社会に生きる 2. 高齢者を知る 3. 高齢者の自立を支える 4. 高齢社会を支えるしくみ	
		第 5 章 社会とかかわる	1. 支えあって生きる 2. 共生社会を生きる	
	2 学期 (24)	ホームプロジェクトと学校家庭クラブ活動	1. ホームプロジェクト 2. F H J. 学校家庭クラブ活動	・ 定期考査の成績 ・ 授業態度 ・ グループワークや発表の様子 ・ 学習ノートやレポート等の各種提出物の内容 ・ 振り返りシート * 上記より総合評価
		第 6 章 食生活をつくる	1. 日本の食文化の形成 2. 私たちの食生活 3. 栄養と食品のかかわり 4. 食品の選び方と安全 5. 食事の計画と調理 6. これからの食生活を考える	
		第 7 章 衣生活をつくる	1. 人と衣服のかかわり 2. 衣服の素材の種類と特徴 3. 衣服の選択から管理まで 4. 持続可能な衣生活をつくる 5. 衣服の構造・デザイン	
	3 学期 (20)	第 8 章 住生活をつくる	1. 人間と住まい 2. 住まいの文化 3. 住まいを計画する 4. 健康に配慮した快適な室内環境 5. 安全な住まい 6. 持続可能な住まいづくり	・ 定期考査の成績 ・ 授業態度 ・ グループワークや発表の様子 ・ 学習ノートやレポート等の各種提出物の内容 ・ 振り返りシート * 上記より総合評価
		第 9 章 消費行動を考える	1. 消費行動と意思決定 2. 消費生活の現状と課題 3. 消費者の権利と責任 4. ライフスタイルと環境	
		第 10 章 経済的に自立する	1. 暮らしと経済 2. 将来のライフプランニング	
	合計 64 時間 (55 分授業)			

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に取り組む態度
	人間の将来にわたる発達と生活の営みを総合的に捉え、家族・家庭の意義、家族・家庭と社会との関わりについて理解を深め、生活を主体的に営むために必要な家族・家庭、衣食住、消費や環境などについて理解しているとともに、それらにかかわる技能を身につけている。	生涯を見通して、家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身につけている。	さまざまな人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域社会の生活を創造し、実践しようとしている。
評価の観点の趣旨と評価方法	[評価方法] 以上の評価項目を踏まえ、 ・定期考査（1 学期期末考査、2 学期期末考査、学年末考査） ・実技テスト ・提出物（作品等） などから、総合的に判断し、達成度により以下の評価をする。 A 十分満足できる 80%以上 B おおむね満足できる 79～50% C 努力を要する 50%未満	[評価方法] 以上の評価項目を踏まえ、 ・定期考査（1 学期期末考査、2 学期期末考査、学年末考査） ・提出物（レポート等） ・グループワーク などから、総合的に判断し、達成度により以下の評価をする。 A 十分満足できる 80%以上 B おおむね満足できる 79～50% C 努力を要する 50%未満	[評価方法] 以上の評価項目を踏まえ、 ・授業の取り組み（授業態度、発表や発言の様子、学習活動への参加状況など） ・学習ノート、実習レポート、振り返りシート、各種提出物 ・定期考査（1 学期期末考査、2 学期期末考査、学年末考査） などから、総合的に判断し、達成度により以下の評価をする。 A 十分満足できる 80%以上 B おおむね満足できる 79～50% C 努力を要する 50%未満
学習のポイント	1 年生では級友との交流もまだ希薄ですが、様々な実習やグループワークを行うことでコミュニケーションの場ともなります。また、家の手伝いなどを率先して行い、技能等の定着を図りましょう。 「家庭基礎」は日々の生活が題材になっています。普段から家庭生活や社会の動きにも興味を持ち、常に責任ある生活者としての視点を持って授業に臨みましょう。すると、次第に課題と解決策を見つけ、実践できる力が身につきます。 I C Tなどを利用して効率良く学習できるように工夫をしていきます。将来、社会人として自立した生活をおくれるように学習しましょう。		